

第12回その一 メモ

以下に示す日本語表現は、テクニカルターム以外は表現・レトリックの問題なので、唯一の正解と受け取らないように。

p.2

第一パラ

この法律をちょっと覗いて見たが、どの条文も既存の行政法の細かな修正の形でしか記述されていない。promesse enthousiaste を謳い上げるような前文でもあるかと思ったが、それも無い。

というわけで、冒頭三行の promesse enthousiaste, bel élan は、どうも筆者の脚色のように思われる。

一番下のパラ

下から2行目

Au XIXe siècle, il y a eu un coup de force de l'administration

この時代の préfet は県知事などと訳されているが、普通選挙によるものでなく、政府の任命する官僚。それで「行政による強権発動」が可能だった。以下ご参考までに。

préfet に関する『小学館・ロベール』の説明は不十分で、正しくは以下の通り：

統領政府時代 (1799～1804年) にナポレオンが第一統領の任免する官選知事を設け、主に世論監視, 徴兵実施, 道路管理等に当らせた。

現在は、閣議決定に基づき大統領令で任命され、県／地域圏において中央政府を代表する官僚。官選知事とか県／地域圏地方長官などと訳されている。

préfet に対して、département 県／région 地域圏において日本の公選制の知事に相当するのは、

Président du Conseil départemental／régional 県／地域圏議会議長

即ち、県／地域圏議会議長が県／地域圏における執行権を持つ。

尚、検索すると Région を「州」と訳してあるサイトが見付かるかも知れないが、これは日本で道州制の議論が高まった時期に使われた訳語で、道州制推進派の人が使う傾向にあった。

最近、故あって「ナポレオン年譜」を作成した：添付ファイル。

ついでに歴史に興味のある方に。

山川出版社・シリーズ世界歴史大系の『フランス史』三巻本

新品は一卷5,877円で、投資の積りでなければ全巻買えない。でも通訳・翻訳を職とする積りならば、三浦先生の仰る「フランス学」の主たる領域の一つとしてフランス史は避けて通れない。

但し通読すべき書物ではなく、必要な時に関係する項目を読む本。勿論、興味があれば通読することを妨げる気は無い。

岩波新書『フランス史10講』柴田三千雄、2006年。

山川出版の三巻本の代りにはならないが、割合最近に出た本で便利。柴田三千雄は山川三巻本の著者の一人。

ついでに我田引水：

「時の流れが実感できる歴史年表」

<http://sksrg.blog82.fc2.com/blog-entry-3.html>

p.3

下から二番目のパラ

下から7行目

obsolète 陳腐化した、古くさい。

ちなみに obsolète / vétuste 陳腐化した / 老朽化した

まだ充分使える設備・機器でも、新たな技術・製品が出てくれば「陳腐化」する。

もう長年使って故障が頻発などは「老朽化」。

p.4

下から二番目のパラ

5行目

terrains «clés en main» すぐに使える土地

工場を立地するには土地があるだけでは足りない。電力・ガス・水道などのインフラが無ければならないし、アクセス用の道路も必要。造成も含めてそういう下拵えを viabilisation と呼ぶ。

最後のパラ

3行目

travail 「作業」が割合多くの場合に使える。ここでは「企業との共同作業」など。

communauté d'agglomération 都市圏共同体

フランスには約36000もの communes (基礎自治体つまり市町村) があり、人口千人以下でも中々合併したがない。しかし現実問題として、水道・ゴミ収集・ゴミ処理などの行政サービスを単独では提供できない commune も当然ある。

そこで合併の代りに活用されているのが intercommunalité 市町村広域行政。

その結果、国の下に今や

région / département / intercommunalité / commune

と自治体が重層的に重なり、しかも intercommunalité は重複して設定されていることもあるので、millefeuille territorial などと揶揄されている。

詳しくは：

「自家製単語帳を順次公開」

<http://www.muse.dti.ne.jp/~kbys/DistributionLexique.html>

リストの下から二番目「地方分権」、p.13 "intercommunalité" を参照。EPCI の次の下部項目に三種類の共同体が並んでいる。

尚、p.5 最後のパラ 3行目の intercommunalité は抽象名詞でなく、そうした共同体の一つを指す。

5行目

dépollution 「除染」としたくなるが、検索した限りでは放射能汚染の除去に限られた表現。

p.5

2行目

Quil-lebeuf-sur-Seine Google Earth Pro で見ると、セーヌ川がある程度この commune を囲むように湾曲している。その対岸にコンビナートがあるらしいので、それが sentiment d'encerclement et d'enfermement industriel を与えているのかも知れない。